不登校児童・生徒支援事例報告書

不登校を未然に防ぐための取組について

不登校児童・生徒の状況

令和４年度は、令和３年度に比べて不登校生徒の出現率を２ポイント程度減少させることができた。また、新規発生率は1.7%であった。状況としては、学業の不振は減少したが、依然として無気力・不安や友人関係を巡る問題による不登校生徒が多く見られる。また、起立性調節障害等に起因して登校が難しくなる生徒が増えてきた。

具体的な取組

〔組織力の向上〕

○　校内研究とタイアップを図り、教員研修を推進することで不登校についての理解と未然防止のための支援の在り方について研究した。

○　教室に入れない生徒の登校・学習支援を図るために、外部人材を活用して別室登校環境を設定、活用した。

【校内体制の強化】

○　加配教員、各学年の教育相談担当及び管理職、ＳＣ及びＳＳＷで構成する教育相談部会で不登校生徒の状況把握と原因分析を行い、校内全体で共有するようにした。

○　未然防止を図るために、校内研修で講師を招き、自己存在感を高めて学校が居場所になれるような指導の工夫について研究した。

［不登校に係る指定項目数値の減少及び解消］

○　不登校出現率（新規）を抑制するために次の３点を実施。

・　生徒アンケートやアセスメントアンケートの実施・分析による早期発見・面談等の実施

・　特別支援教育の視点を取り入れた、落ち着いて授業に臨めるような教室環境の整備

・　学業の不振による不登校を減らすための教育支援ボランティアの配置

【個々の不登校生徒への支援】

○　不登校生徒及びその保護者との関係が切れないよう、全校で家庭への連絡や相談等の対応の充実を図った。

○　必要に応じてＳＣやＳＳＷ、関係機関及び医療との連携について、本人や保護者に助言や支援を行った。また、必要に応じてケース会議を実施した。

成果

友人関係を巡る問題に起因する不登校の出現はかなり抑えることができた。また、学業の不振による不登校についても昨年同様に出現を提言させることができた。

また、現状で不登校の生徒に対して学校に関心をもたせることができつつある。

課題

医療との連携が必要なケースの他に、家庭環境に係る問題による不登校生徒が増えてきた。

今後は家庭との連携・支援を充実させていく必要がある。

不登校児童・生徒支援事例報告書

不登校生徒の対応について

不登校児童・生徒の状況

不登校の生徒は、３年生 10 人、２年生４人、１年生１名。教室に入れない主な原因は、特に理由がない生徒が半数以上を占め、それに続くのが人間関係の不調や、学習に対する不安である。家庭との連携が難しい状況にある不登校生徒もおり、SSW やＳＣ、市の教育相談室・子ども家庭支援センター・児童相談所などの外部機関とも連携を取りながら、チーム学校として対応に当たっている。

具体的な取組

別室の拡大

本校では以前より、教室に入れない生徒のために別室登校を設けていたにもかかわらず、毎年のように新たに不登校生徒が出現するので、別室対応の強化を図った。支援員や教員が対応し、別室登校日を週３日から４日へ増やした。

相談委員会

週に 1 度相談委員会を開いて不登校生徒を中心に、気になる生徒についての情報を共有し、対応を検討している。委員会には管理職・各学年と特別支援教室の教員各一名・養護教諭・SC・SSW・特別支援教室専門員が参加している。共有された情報は担当教員から各学年へ共有され、組織的対応の一助となっている。

一人１台端末の使用

別室では、利用生徒の学習機会の保障が課題である。各教科で課題や振り返りを ICT 端末を用いて行えるようにしたことで、在宅での学習も可能となった。担任とのやりとりについても、ICT を使って、顔を見て会話することで、より親密な信頼関係を築くことができている。

相談室

週に１度 SC が勤務し、生徒・保護者のカウンセリングを行っている。また、不登校になりそうな生徒の早期対応や、潜在的に不安を抱えている生徒を見付けることを目的として、毎年 1 年生全員と面談を行っている。

成果

別室利用生徒の中には、教室に入れる日数や時間が長くなってきている生徒も増えた。その他の不登校生徒についても、ICT や家庭連絡を経て、登校を再開した生徒も見られた。

別室で勉強している生徒↓

課題

人間関係の不調や精神的不安から別室を利用する生徒が増えており、その学習機会の保障や学力向上の手だてが今後の課題である。